

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2022年4月5日

事業ID:2019516855
 事業名:ラオスにおけるろう者のエンパワメント及びラオスろう協会の強化
 団体名:特定非営利活動法人アジアの障害者活動を支援する会
 代表者名:前島 富子
 TEL:03-6915-5545
 事業完了日:2022年3月31日



事業費総額	: 15,013,560円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	: 3,293,560円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	: 11,720,000円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	: 0円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
 なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 地方におけるろう者リーダーの育成
 (1)時期:2020年5月~2020年10月
 (2)場所:ラオス北部、南部
 (3)対象者:各30名(ろう者)
 (4)内容:ネットワーク構築、リーダーシップ育成のワークショップ

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. 地方若手ろう者リーダー育成ワークショップ
 ○フアバン県 リーダー育成ワークショップ
 (1)時期:2020年6月22日~26日
 (2)場所:HP ビエンサイ村 みんなのカフェ
 (3)対象者:未教育のフアバンろう者及びサポーター14名(コロナ感染のため人数制限あり)
 (4)講師:ろう協会会長、副会長、ADDPスタッフ、ピエンチャンろうリーダー
 (5)内容:ネットワーク構築、リーダーシップ育成、基礎手話指導

○サワンナケート県 リーダー育成ワークショップ
 (1)時期:2020年6月3日~5日 10:00~16:30
 (2)場所:“みんなのカフェ” in Savannakhet 県
 (3)参加者:19名(うち女性13名) 3日間(コロナ感染のため人数制限あり)
 (4)講師:講師 ラオスろう協会・会長、副会長、ADDPスタッフ2名
 (5)内容:1日目&2日目 コロナ禍による情報保障、COVID-19に対する正しい情報と予防について講義。ピエンチャンろう協会ニュースの共有、3日目「リーダーシップとは」「手話啓発について」「コロナウイルス感染に気をつけよう」のサワンナケート版の動画アップデート作成。

○ルアンパババン県
 (1)時期:2020年9月14日~17日 10:00~16:30
 (2)場所:ルアンパババン藍学校
 (3)参加者:24名 4日間
 (4)講師:講師 ラオスろう協会・会長、副会長、ADDPスタッフ2名
 (5)内容:
 ◎ルアンパバンろう者リーダーセミナー、ネットワーク構築・コロナ感染の情報共有、リーダーシップ育成(ルアンパババンろう学校におけるリーダー育成ワークショップ)



(3)成功したこととその要因

フアバン県セミナーの成功:比較的コロナ感染がまだ広がっていない北部フアバン県において、リーダー育成セミナーを実施することができた。県を超えての移動の許可を取得するのに大変な労力と説得を行う必要があり、本セミナーの意義をフオス政府も理解、特別に許可が出たことは成功要因だった。フアバン県にはろう者が多く住んでいるが、各人の所在する村々が離れているため、なかなか対面で会えない。孤立したろう者の存在を探し出し、ろう協会がオンラインで面接、セミナー参加を促すことができた。教育も一切受けていない10代、20代のろう者が10名発掘され、コロナ禍で14名以下の参加者のみ許可が出たために10名+家族のフアバン県の初めてのろう協会支部の開設のためにも基礎手話の指導及び、エンパワメントに資するリーダーシップ育成のワークショップを実施。10名の参加者は大いにエンパワーされた。手話の獲得が非常に大事であり、これらもビジョン・みんなのカフェと定期的に連携をし、10名のろう者をネットワークを構築することとなった。合計で、18名のろう者がフアバン支部として登録、新しく発掘できたろう者も就労に意欲ある者はみんなのカフェでの就労も視野に入れてエンパワメントを続けていく。

サワナケート県セミナーの成功:手話によるサワナケートろう協会支部の地域のろう者に向けた動画発信は引き続き重要であり、サワナケート県で孤立するろう者とネットワーク構築に大きく貢献する。新しくつながったろう者の生活や情報コミュニケーションの後方支援をサワナケートのろうリーダーが現在担っている。その活動の様子についての報告が行われた。サワナケートのろう者は2007年まで、サワナケート保健局リハビリテーションセンター内にろう学校があり、その学校に通ったことのある成人ろう者は比較的手話ができる人が多い。講習は比較的内容の理解は問題なく進み、予定通り行うことができた。ピエンチャンのろうリーダーが使用する手話がラオスのスタンダードのラオス手話であるが、その手話を地方のろう者は理解しないことが多い。サワナケートろう者も異なる手話を出しお互いに理解するまで多少時間がかかるがほとんどのろう者が標準のラオス手話を理解する。しかし、特にCOVID-19の情報が届いていない様子であり、そのトピックに関し、熱心に質問が出ていた。新型コロナウイルスの猛威の中、サワナケートのろう者は、コロナウイルスについての情報共有が十分にまだ進んでおらず、家族の中からも孤立している。ラオス政府のコロナ対策に関して正確に情報を伝えたり、サワナケートろうリーダーが情報発信をしながらサワナケートエリアのろう者が情報から取り残されないよう、リーダーシップの重要性を説き、支部の結束を高めた。サワナケートのリーダー一人ひとりが自覚を持ち、まだネットワークから漏れている孤立したろう者を更に発掘し、ろう協会のネットワークにつながるよう努力するようコロナ感染に気を付けながら、皆の士気を高めることができた。

ルアンパバーン県セミナーの成功:北部ルアンパバーン県にて、昨年同様、LDPA及びろう協会と協力しリーダーシップ育成ワークショップを実施した。ルアンパバーンにはろう学校を中心としてろう協会支部が設立された。教員もとても協力的であることが成功要因でもある。目下のルアンパバーンろう協会支部の重要テーマは同学校卒業生(中学卒業)就労機会につながることであり、卒業後の進路は引き続き厳しい状態にあり、就労率が非常に低いことが大きな課題であったが、今回もテーマはろう協会支部の新しい動き、ラオスろう協会の支部や活動の説明、ろう者のエンパワメント、ろう者のリーダーシップ、ピエンチャンのカフェでの実際に就労しているろう者の就労ロールモデルが「就労の重要性について」のプレゼンテーションを行った。実際にピエンチャンのロールモデルが同行したのは効果的で、ルアンパバーンろう学校とルアンパバーンという世界遺産の都市の巨大な観光業と就労機会がリンクしていないことが課題であることから、ろう学校教員と共に地域のカフェやレストランに向けてみんなのカフェの実践などを記したパンフレットを持参し、実際に世界遺産のルアンパバーンの街に所在するカフェやレストランオーナーにもろう者の職業能力について、手話をコミュニケーションとするカフェの可能性、また、新規就労機会の可能性につき直接広報活動を行ったことはとても効果的だった。みんなのカフェの存在はルアンパバーンのいくつかのカフェのオーナーが知っていることから、ビジネス事業者にもろう学校を見学してもらい、社会貢献やソーシャルビジネスの観点からも、前向きに就労機会の提供を考えていきたいと話しているオーナーもあり、引き続きろう協会もコンタクトを続けていくことを確認し、前向きな連携が今後期待される。また、今回のワークショップ参加者は中学生1年生から3年生の18名とろう学校教員6名が参加した。就労を意識したテーマを網羅し、ろう協会スタッフを中心に、今後のろう者の卒業後の進路の可能性や観光業との連携の促進(カフェ・レストラン・ホテル等)、就労への機能、手話や、家族との関係等の議題を引き続き中心に議論し、各個人とろう協会幹部との個人面談や手話レベルの確認なども行われた。面接でもやはりコロナ禍でもあり、仕事を得るとの難しさ、また具体的な就労のイメージがわからないなど将来に悲嘆している若いう者もあり、ろう当事者のピエンチャンのリーダー達がモチベーションと自分の経験をイキイキと話し、自信を深めながら仕事をし、将来を切り開いていくことの重要性をロールモデルの経験を共有し、何人かのろう生徒が感極まって涙する様子もあった。引き続きルアンパバーンのろう学校の若いう者をエンパワーし少しずつ準備を進めている

(4)失敗したこととその要因

サワナケート県セミナーの課題:⑥課題:リーダーセミナーの目的として、現在ろう学校がサワナケートになく、10代の若いう者の手話がサワナケートでは統一されておらず、それぞれ語彙が若干異なったり、ラオス手話の統一がなされていないことが大きな課題といえる。サワナケートでスタンダードなラオス手話啓発活動のために、ラオス手話の正式な語彙を増やし、手話の向上を目指すことが引き続き重要であり、今回も引き続きテストを行ったり、アイデンティの重要性や意識の向上を講習会で行ったが語彙が少なすぎたため時折理解が難しい点も多かった。コロナ禍のため人数制限や感染予防の観点から30名を集めることができなかった。

ルアンパバーン県セミナーの課題: 現在、ろう学生たちは、卒業後にルアンパバーンでの就職がなかなか見つからず、ろう者のコミュニティもバラバラになってしまうことも問題。そのためルアンパバーンでろう協会支部を設立して、しっかりとろう者のコミュニティが持続可能な形で存在し、皆が繋がるような場所作りを行なうことが重要であることが更に確認された。

(5)事業内容詳細

別途詳細報告書(写真入り)を提出

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

- 2. 社会参加・社会自立のための活動
- (1)時期:通年
- (2)場所:ラオス北部・中部、南部
- (3)内容:ろう協会賞委員会定期会の開催(計6回)、サイナカフェの運営、手話講座の開催

(2)事業内容の実施(完了)状況

- 2年間で15回の小委員会定期会議が実施できた。
- 2020年度(ろう協会 定期連絡会の実施)
- 4月ラオス正月のためなし。
- 5月5日 オンライン(ビエンチャン) 緊急理事会、分科会リーダー会議、コロナ感染対策のSNS発信 6名
- 6月18日 オンライン幹部会議(ビエンチャン、サワナケート、フアパン)分科会リーダー会議、コロナ感染対策SNS発信の内容会議
- 8月14日 オンライン会議、小委員会リーダー会議、コロナ禍における各支部の状況把握
- 10月19日 オンライン会議 小委員会リーダー会議、手話テキストについて、
- 11月24日 対面ミーティング 定期連絡会議。フアパン県におけるろう者の開拓、サポートについて
- 2021年
- 1月15日 オンライン幹部会議 小委員会リーダー会議 就労の現状について
- 4月9日 ロックダウン情報共有のためのろう協会FBの撮影、分科会会議、コロナ対策における情報共有について
- 6月17日 オンライン会議、ろう教育会議、コロナ禍対策情報共有
- 8月5日 コロナ感染予防及び世界の情勢についての共有(オンライン)
- 8月26日 定期総会、各支部のろう者手話講習テスト作成、FBビデオ作製
- 10月28日 ロックダウン対応、小委員会リーダー発表(サワナケート、ルアンパバン)、幹部会議オンライン
- 12月15日 定例総会(オンライン 21名参加)
- 1月26日 小委員会教育部門担当リーダー会議、手話辞書の改定の打合せ
- 2月23日 定例会 FBビデオ撮影、コロナ感染対応情報共有
- 3月30日 小委員会就労部門リーダー会議、サワナケート、ルアンパバン。フアパン支部をつないだ総合会議(35名参加)



(3)成功したこととその要因

ラオスろう協会の若手の結束が強く、会長のリーダーシップもしっかりとしていて、テーマ毎に委員会も創設されているため課題がしっかりと協会幹部に届くシステムになっているためすぐに課題があれば会議を開き、決定事項を各メンバーに連絡する報告相談のシステムが構築されたことが成功の要因ではないか。また、交流会や手話講座はコロナ感染蔓延のため、講座やイベント自体は開催できなかったが、日頃のカフェの顧客に向けてのミニ手話講座など工夫しながら、ラオスの一般のコミュニティの人たちを手話サポーターとして活動に取り込む工夫はいたるところでカフェのスタッフ中心に努力したため、コロナ禍であってもろう者の努力がみんなのカフェの集客力のアップにも貢献した。カフェ運営に関してはコロナ禍の中でもSNS等でカフェの存在はラオスでは大いに周知されており、サポーター数は年々増えており、特に在ラオスの大使館(アメリカ、シンガポール、韓国、日本)が定期的にみんなのカフェからの注文や、外交夫人団の会合の場としてコロナ禍の際も貸し切りで利用してくれるなど、手話を啓蒙し広報してくれるサポーターが徐々に増えてきた感はある。2020年4月から2022年3月まで、4つのカフェで累計で1,261名の訪問客であった。

(4)失敗したこととその要因

特になし。

(5)事業内容詳細

別途詳細報告書(写真入り)を提出

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

3. ろう者の拠点づくり
(1)時期:通年
(2)場所:ヲオス北部、南部
(3)内容:3都市におけるサインカフェを中心としたろう者拠点づくり



(2)事業内容の実施(完了)状況

3. ろう者の拠点づくり
(1)時期:通年
(2)場所:ヲオス北部フアバン県みんなのカフェ、南部サワナケートみんなのカフェ
(3)内容:3都市(ビエンチャンサワナケート及びフアバン県)におけるサインカフェを中心としたろう者拠点づくりが完了し、カフェは支部としてろう者の活動の拠点ともなっている。

(3)成功したこととその要因

ろう者の拠点づくりとしてのカフェ運営はコロナ禍により2020年4月以降24か月の間で半分ほどの期間休店に追い込まれた。しかしサワナケートカフェで勤務する研修生を含めたスタッフ5名、フアバンカフェの研修生を含めたろうスタッフ合計12名、ビエンチャンのみんなのカフェ2店舗は研修生を入れて、13名と、合計30名のろう者の就労とまた手話によるコミュニケーションの拠点となるカフェの運営はコロナ禍ではありながら、誰も脱落することなく、ネットワークを強固に、カフェ運営を続けている。このソーシャルビジネスの「みんなのカフェ」が発信する手話によるコミュニケーションを啓蒙するカフェがあることはろう者にとっても心強い存在になっている。

(4)失敗したこととその要因

コロナ禍のため、人流が制限され、人が集うことが困難であったため、ろう者が集うカフェにおいての交流会等はほとんど実施できなかった。

(5)事業内容詳細

別途詳細報告書(写真入り)を提出

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

【助成契約書記載の目標】

1. 北部と南部の地方ろう者でリーダー素質のあるろう者をエンパワーする。
2. 地方都市における若手ろう者のリーダーシップを育成する。
3. ろう協会と当事者ニーズに即した長期活動計画を策定する。
4. ろう者と一般の住民、サポーターとの交流の機会を設ける。
5. 一般のボランティアの学生に対し、手話講座を開催し、将来の手話通訳者候補及びろう協会サポーターを育成する。
6. 障害者間のピアサポートを通じ、就労機会や社会参加機会を増やす。
7. カフェ運営を通じて最低30人の自立した就労ロールモデルを育成する。

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	699	文字数チェック	OK
1の達成状況:北部と南部合計52名以上のろうリーダーをエンパワーすることができた。			
2の達成状況:地方の52名のろう者のリーダーシップを育成することができた。			
3の達成状況:当事者ニーズに即した就労・ろう教育・手話啓発・ろう協会の長期活動計画がラオス労働社会福祉省により正式に承認され、労働社会福祉省今後の政策立案の参考にするため本事業成果が政策提案書として提出された。			
4の達成状況:2020年より新型コロナ肺炎の世界的パンデミックが始まりラオスも2年間ロックダウンが実施され、カフェ運営は大きく制限された。ろう者と一般住民のコミュニケーション機会が奪われた。しかし2年間でカフェ来訪者1261名であり来訪した顧客には積極的にスタッフは手話で交流。			
5の達成状況:手話講座が開催できず、一般ラオス人に向けた手話啓発が制限され、イベントも開催不可、外部での手話啓発が制限された。手話講習もオンライン継続を模索したが、難しかった。手話通訳者は5名となり、ろう協会メンバー会議出席サポート等OJTの機会を作ることができた。政府会議やセミナー等で通訳者として技術を磨くことができています。現在、教員養成学校で正式な手話通訳コース導入の話が出ており、今後ラオス国の正式なライセンスとなる可能性もある。			
6の達成状況:カフェ4店舗の運営が始まりろう者同士のピアサポートが促進された。カフェ運営を通じてろう者の就労機会も拡大し、社会参加も増えている。			
7の達成状況:カフェ4店舗並びにベーカーリーセクションで、合計で、最低賃金以上の給料を得られているろう者研修生32名育成され、目標を達成している。			

3.事業実施によって得られた成果

<p>(目的) 北部、南部の基盤都市でろう協会の支部の役割をする啓発カフェ等ができ、ろう協会組織と連動し、地方でも情報提供ができるようになる。社会にも手話の啓発や手話講座が広がり、また、カフェ運営を通じてろう者の自立した就労ロールモデルが育成されることを目的とする。</p> <p>○プロジェクトの最終年を終え、現在、日本人ろう者によるピアサポートを通じて、北部、南部の基盤都市(フアンバン県及びサワナケート県)でろう協会の支部の役割を担うろう者が集える啓発カフェができ、ソーシャルビジネスとしても持続可能な運営が可能になる道筋が立った。カフェはろう協会の組織と連動し、地方でもろう者の居場所ができ、就労を通じて社会自立も成し遂げるロールモデルのろう者が32人誕生した。ろう協会本部の新しいろう者の社会統合の方針やコロナ感染予防情報等がしっかり地域のろう者に伝達される連絡システムも構築できている。また、カフェを通じて、地域に手話の啓発が広がったり、手話サポーターの育成にもつながる手話講座の定期解散もシステムが構築され、手話啓発が進みだけでなく、カフェ運営を通じてろう者の敬愛的自立をサポートし、本事業で多くの就労ロールモデルが育成された。また、ピエンチャンに本部のあるラオスろう協会本部が、4つのラオスの基盤都市を軸に、全国のろう者とネットワークの足掛かりを支部創設と共に構築し、社会で活躍する手話啓蒙の原動力ともなるロールモデルも地方で作られた。ろう者のアイデンティティである「手話」が、言語として、社会に啓発され、また手話を理解する聞こえる一般の人たちも益々増え、手話コミュニケーションがカフェを通じて促進され、そのことが、ろう者にとっても喜びを生み、自信を醸成し、仲間と連帯し、共に成長し合い、支えながら、ろうコミュニティの更なる結束につながっている。上記の最終目的も、就労の部分は着実に成果を上げている。ろう者のエンパワメントやろう協会の発展に関しては、地方の県でもろう者リーダー達を中心にピアサポートグループが生まれており、ルアンパバーン県、フアンバン県、サワナケート県で支部が出来上がったことは大きな成果である。ろう協会が少しずつ進化し、組織が強固となり、団体をけん引するリーダーが着実に育っていること、そして、社会参加や社会自立のロールモデルも生まれており、エンパワメントを通じた当事者のピアサポートグループが生まれたことは大きな成果である。この成果に関しては、ろう協会会長のタタ氏や副会長パイワン氏、各支部のリーダーたちの積極的なイニシアティブによるところが大きく、彼らのリーダーシップのたまものでもある。そして上記でも述べたが、ラオスろう協会を支える池田専門家の功績が大変大きい。池田氏自身がろう者であり、ろう者のリーダーとして、様々な経験や世界の潮流をラオス人ろう者たちに伝え、ろう者としての社会でも役割、手話を啓蒙することの意義をラオスろう者に熱心に伝え、ラオスろう者がその期待に呼応している。今後もプロジェクトは終了するが、当会も池田専門家と共に引き続きラオスろう協会の後方支援を行いながら、ラオス社会に更なる手話の啓蒙、カフェの就労の促進、ろう者の存在や手話はこれからも啓発していく。</p>

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

<p>就労活動を通じて見えたろう者の教育問題は課題が多い。昨年書いたが、ろう者の多くがまともな教育を受けられておらず高等教育へ一人もろう者は進むことができていない。簡単な基礎的学力も備わっていないろう者も多い。今後はろう教育向上も大きなテーマであることから、こちらの事業は別途「ラオスろう教育向上プロジェクト」として実施しており、ラオスのろう者の大学進学をサポートを目指す。教育と就労の円滑な移行についても引き続きサポートが必要である。</p>
--

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

報告書

(2)事業完了時の成果物名称

報告書

(3)未作成となった要因

計画通り

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください→ https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra_gui_01-1.pdf (なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。)

上記で登録したURLをご記載ください。

<https://fields.canpan.info/report/detail/26592>